会 議 名	令和元年度 滋賀県がん診療連携協議会 第		第28回 地域連携部会	
開催日時	令和2年2月28日(金)			
開催場所	大津赤十字病院 6階会議室 →新型コロナウィルス感染拡大防止のためメールにて開催			
出 席 者		-11- 111	#4 (27 人 巨)	
	大津赤十字病院		敬三(部会長)	
	滋賀県立総合病院		秀和(副部会長)	
	滋賀医科大学医学部附属病院		聡 (副部会長)	
	大津赤十字病院	德谷 一+A		
	滋賀県立総合病院		真澄	
	滋賀医科大学医学部附属病院		聖子	
	彦根市立病院	林	栄一	
	市立長浜病院		俊一 佳久	
	高島市民病院 公立甲賀病院	金金	哲將	
	市立大津市民病院	並 七里		
	草津総合病院	戸川	剛	
	幸年総百州院 済生会滋賀県病院	増山		
	近江八幡市立総合医療センター		邦之	
	東近江総合医療センター		浩也	
	長浜赤十字病院	塩見	尚礼	
	滋賀県医師会	小西	道 [1]	
	滋賀県医師会	-	雅一	
	滋賀県歯科医師会	. –	智一	
	滋賀県保健所長会	寺尾	敦史	
	滋賀県薬剤師会	丹波		
	滋賀県看護協会	小川	薫子	
	滋賀県歯科衛生士会	村西	加寿美	
	滋賀県がん患者団体連絡協議会	天満	清央	
	滋賀県健康医療福祉部	野坂	明子	
	滋賀県立総合病院	川邊	義巳	
	【事務局】			
	大津赤十字病院	加藤	理史	
				(敬称略)
議事概要	1. 滋賀県がん地域連携パス運用状況について ○登録件数について 【資料1-1】は、2010年4月~2020年1月末のがんパス運用登録一覧表である。現在までにバリアンスや5年経過し、パス運用が終了しているものも含まれるが、合計2,392件、登録されている。 がん種別・年度別にグラフ化したもの【資料1-2】では、今年度(2019年度)値は推			
	定の概算値だが、全体の登録件数は244件となり、2016年度をピークに減少傾向である。			

がん種別に見ると大腸がんパスのみ前年度より増加している。詳細に見てみると【資

料1-3】、胃がんの早期パスが2018年度 87件 → 2019年度 56件と31件減少している。

【資料1-4】は、施設別に年度推移を表したものだが、前年度と比較し、10件以上増加した施設は、市立長浜病院、彦根市立病院の2施設。逆に10件以上減少しているのは、大津赤十字病院、滋賀県立総合病院、長浜赤十字病院、近江八幡総合医療センターの4施設であった。

○バリアンスについて

【資料2-1】は、バリアンス件数をがん種別、施設別に表にしたものである。

前回の部会では、バリアンス理由を日本医療マネジメント学会が定める30種類に及ぶ分類に細かく分けていたが、"転移・再発"、"がん以外の疾患の問題"、"死亡"、"患者・家族の問題"、"その他"の5種類に分けて(胃、大腸のみ)表にしたものが【資料2-2】である。また、この資料には、バリアンスとなった時点の平均年齢、バリアンス発生までの平均日数も表した。

早期がんパスについては、胃がん・大腸がんパス共に"患者・家族の問題"が理由としては最も多く、バリアンスまでの日数も進行がんパスと比較すると、胃がんパスで約1.8倍、大腸がんパスで約1.6倍長くなっている。この原因として考えられるのは、早期がんの場合、数年間、術後フォローで問題なく過ごされるとパススケジュールに則った受診をされなくなる患者さんが一定数存在すると考えられる。

また、早期がんのバリアンス理由において、"死亡"が多いが、がん疾患での死亡なのか、他疾患が原因の死亡なのか不明であるので、来年度、事務局へのバリアンス報告様式を変更して、死亡理由を明確にしていきたい。

分析方法・データ抽出方法について、ご提案等があれば、事務局にて可能であれば、 随時実施していくので、部会員より、ご意見を頂戴したい。

また、下記のような意見があった。

(滋賀県歯科医師会 吉田部会員)

・【資料1-4】について

パス登録件数が、2016年をピークに減少しているのは、何か理由があるのか? 特に大津赤十字病院でその傾向が大きいように思う。

→大津赤十字病院は、2016年 110件と突出して登録件数が多かったが、これは 医師の退職に伴い、前立腺がんパスが多く使用されたためである。以降、年々 減少傾向にある理由は、やはりパスに精通した医師が退職や異動してしまうた めである。これを防ぐためにも、新任医師向けにパスについて説明を行う必要 がある。

2. 地域連携部会 今年度予定について

・アクションプランシートについて 【資料4】

今年度の目標として、がんパスの登録件数を年間290件としていたが、【資料1-2】 のとおり、244件(推定)であった。

パスの見直しについては、肺がんパスを改定したが、前立腺がんパスの見直しには 着手できなかった。

パスの評価としては、バリアンス分析を進めており、今後も継続していく。 今年度最終評価としては、「B | 評価としたい。

3. その他

・「がん治療連携指導料」の施設基準届出状況について、近畿厚生局のホームページを 確認していただいているが、届出している医療機関が対応できるがん種については、 ホームページ上では確認できない。

計画策定病院間で情報を共有するために、新規に届出した際、連携する医療機関が、どのがん種に対応可能なのかを事務局に報告するようにしてはどうか、ご意見を頂戴したい。

→報告様式(案)を作成し、各医療機関の事務局へ提示する予定。

その他

なし

以上のとおり報告します。

令和2年2月28日

滋賀県がん診療連携協議会 会長 様

地域連携部会 部会長 芥田 敬三